

[タイム] 下降開始(12:30)→下降終了(14:20)

天王川(梓沢)左俣

1990年9月23日

L

12:10遡行開始。沢ぞいの踏跡がつきるまではずっと平凡な流れが続く。杉の造林地が終わり、沢ぞいの踏跡がはっきりしなくなると、沢にはナメと小滝が見られるようになってきた。でも、両方ともポツリポツリという感じである。そのうち沢がだんだんと細くなってきて、源頭までこんな調子でいってしまうのかなあと思いだした頃、4mのトイ状滝が出てきた。今までの滝より落差はあるが、登るにはそう苦勞しない。水流の右側を楽に直登できた。

滝の上はますます沢の規模が小さくなる。まあまあの滝が1本あったから後はもういやと話していたら、今度は4mの滝1個を含んだ連瀑が出てきた。4m滝以外は落差も小さく、別にどうということもない。4m滝は、ちょっと登れず、右岸から捲いて上に出た。

このあとはもう完全に源流の装い。沢はますます細くなってゆく。13:35、もうよかろうということになって、遡行終了とする。

(記

[タイム] 出合(12:10)→遡行終了(13:35)

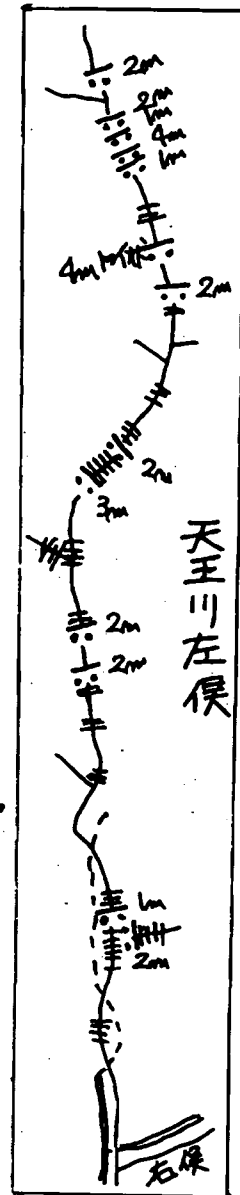
荒滝沢(仮称)左俣

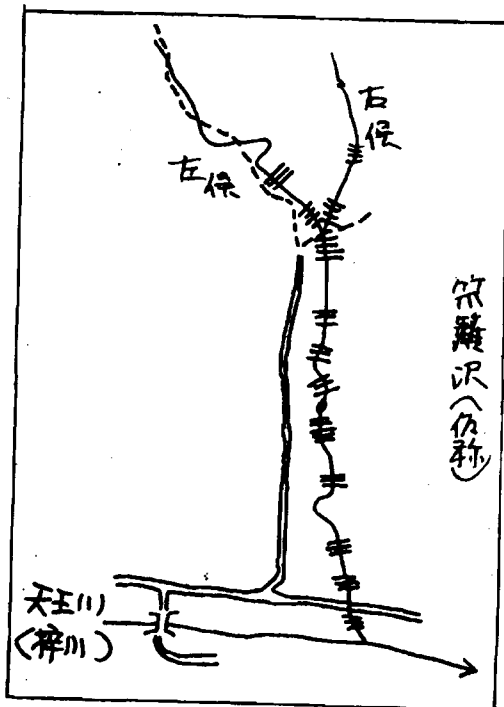
1990年10月14日

L

出合付近に車を置き、遡行を開始する。沢は平坦で滝は期待できそうにないが、ナメが続いて良い感じがする。沢は途中蛇行している。20分程で二俣に着く。水量比1:1である。この間の標高差は20mで、さして変化もない。地図には堰堤の記号が記されているが、確認することはできなかった。

二俣で昼食をとった後、右俣を遡行する加藤・鈴木パーティと別れて、左俣に入る。左俣に入ると、沢は極端に狭くなり、少し進むとヤブがかぶさって歩きづ





らくなる。並行している作業用歩道を使って登っていくと、二俣から10分程の所で水も濁れてしまう。私たちはここで遡行終了とし、作業用歩道を出合まで戻る。(記・

[タイム] 出合(12:00)→二俣(12:20, 12:30)→遡行終了(12:40)

沢跡沢(仮称)右俣

1990年10月14日

I)

林道脇に車を止め、沢に入る。和泉さん達のパーティと二俣まで一緒である。平坦な地形で、樹林の中、沢は曲

がりくねり流れている。所々ナメ状になっているものの、何もなさそうである。踏跡が所々横断しているが、山仕事の道らしい。

二俣で和泉さん達と別れ、私たちは右俣へ進む。すぐヤブがかぶってきて、沢も1m程の堀になってしまい、遡行終了とする。

(記・

[タイム] 出合(12:00)→二俣(12:20, 12:30)→遡行終了(12:40)

摺白沢

I

1990年9月23日

8:10天狗沢との出合から遡行開始。沢幅はせまいが、出合からナメが断続している。10分程で樽見沢出合。樽見沢は小さな沢で、出合はともすると見落としてしまいそうである。このあと嵯峨住沢出合まで更に10分。滝はなく、ナメがあるだけ。しかも一部伏流となる

